

健康福祉委員会資料

(病院局関係)

2 所管事務の調査（報告）

(1) 「川崎市総合計画」第2期実施計画・令和2年度事務事業評価結果
について（病院局に関する部分）

資料1 「川崎市総合計画」第2期実施計画・令和2年度事務事業評
価結果について（病院局）

資料2 令和2年度の事務事業の評価結果一覧（病院局）

参考資料 令和2年度の事務事業の評価シート（病院局）

病院局

令和3年8月30日

「川崎市総合計画」第2期実施計画・ 令和2年度事務事業評価結果について（病院局）

1 趣旨

「川崎市総合計画」第2期実施計画における、病院局の令和2年度の事務事業評価結果を取りまとめました。

2 「川崎市総合計画」第2期実施計画・令和2年度事務事業評価結果（概要）

「川崎市総合計画」第2期実施計画に基づく施策に位置付けられた事務事業のうち、病院局が所管する事務事業は5事業あり、そのうち目標をほぼ達成したものは1事業、目標を下回ったものは4事業ありました。（表1）。

表1 施策に位置付けられた事務事業の達成状況区分別 事業数と構成比（病院局）

| 達成状況区分 | | 内容 | 事業数 | 構成比(%) |
|--------|--------------|--|-----|--------|
| 1 | 目標を大きく上回って達成 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標に明記した期日よりも相当早く達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに大きく貢献した。 ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。 | 0 | 0.0% |
| 2 | 目標を上回って達成 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標に明記した期日よりも早めに達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに貢献した。 ・目標に明記した期日どおり達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。 | 0 | 0.0% |
| 3 | 目標をほぼ達成 | <ul style="list-style-type: none"> ・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・途中で多少の遅れはあったものの、最終期限には間に合う形で、目標に明記した内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し業務遂行に支障がなかった。 | 1 | 20.0% |
| 4 | 目標を下回った | <ul style="list-style-type: none"> ・目標に明記した内容は達成したが、期日が遅れた。 ・目標に明記した期日どおりであったが、明記した内容に満たない水準であった。 ・目標に明記した数値を下回った。 ・所定の期日に間に合わないなど、業務を適正に処理できなかった。 | 4 | 80.0% |
| 5 | 目標を大きく下回った | <ul style="list-style-type: none"> ・目標に明記した期日よりも遅れ、明記した内容に満たない水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。 | 0 | 0.0% |
| 合計 | | | 5 | 100.0% |

令和2年度の事務事業の評価結果一覧(病院局)

| 番号 | 事務事業コード | 事務事業名 | サービス分類 | 事務事業の概要 (簡潔に記載) | 主な取組の実績 | 事業費 (千円) | | 事業の 達成度 | 参考資料 掲載頁 |
|----|----------|-----------------------|------------------|--|---|-------------|-------------|------------|-------------|
| | | | | | | 予算額 | 決算額 (見込) | | |
| 1 | 10602010 | 川崎病院の運営 | 施設の 管理・運 営 | 高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院として精神科救急患者(二次、三次)の受入を行います。 | <ul style="list-style-type: none"> ●救命救急センター棟の基本設計に着手するなど医療機能再編整備を推進 ●三次救急において高い応需率を維持(三次救急応需率:94.8%) ●精神科救急医療を安定的に提供(精神保健指定医:3人以上の維持) ●地域医療支援病院の運営と連携の推進(紹介率:71.7%、逆紹介率:113.4%) ●がん診療連携指定病院の運営と機能強化等(がん登録数:1,710件 PET-CTの運用件数:832件) ●神奈川モデルの高度医療機関及び重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受入れ(延3,822人) | 11,165,875 | 10,135,186 | 4 | P6 |
| 2 | 10602020 | 井田病院の運営 | 施設の 管理・運 営 | 南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行います。 | <ul style="list-style-type: none"> ●手術支援ロボットや化学療法の充実などによりがん診療を推進(がん登録数:1,445件) ●患者やその家族に対する外来・入院・在宅と切れ目のない緩和ケアを提供(緩和ケア患者受入数:489人) ●多職種連携等により地域包括ケア病棟を円滑に活用(病棟稼働率:73.5%) ●地域医療機関との連携により機能分化を推進(紹介患者数:5,648人) ●医療依存度の高い患者に対する在宅診療等の実施などにより在宅復帰・在宅養育支援を充実(訪問診療件数:1,212件) ●神奈川モデルの重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受入れ(延4,606人) | 4,968,798 | 4,726,929 | 4 | P9 |
| 3 | 10602030 | 多摩病院の運営管理 | 施設の 管理・運 営 | 指定管理者制度を導入し、民間活力を活かした効果的かつ効率的な病院運営を行います。基本的医療機能として、救急医療、小児救急医療、災害時医療を中心に、小児から成人、高齢者・妊産婦等への医療の提供を行います。 | <ul style="list-style-type: none"> ●指定管理者との定期的な打合せ及び市立病院運営委員会における審議とモニター会議を通じた意見聴取を実施し、適切に病院運営を推進(開催回数:4回) ●24時間365日の救急医療、小児救急医療等を実施し、良質な医療を安定的に提供(救急患者受入数:7,820人) ●軽易工事、建設改良工事等により長寿命化に向けた適切な施設維持を実施するとともに、超音波診断装置等を更新するなど、医療需要に基づいた確かな医療機器更新を推進 ●神奈川モデルの重点医療機関として、新型コロナウイルス感染症患者を積極的に受入れ(延2,451人) | 828,632 | 828,386 | 4 | P12 |
| 4 | 10602040 | 良質な医療の提供を担う人材の確保・育成事業 | その他 | 効果的な広報活動、柔軟な採用選考、多様な任用制度の活用等により、採用困難職種である医師、看護師等の確保に取り組むとともに、局人材育成計画に基づき、各種研修の充実、受講支援等を行い、職員の人材育成と能力開発に努めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ●リハビリテーション提供体制の強化や薬剤療法などの質の向上などに対応するため定数条例を改正 ●民間主催の就職説明会への参加(出展数:15回)や、年2回の採用選考の実施等により、採用困難職種である看護師等を確保 ●局人材育成計画に基づき各種研修を実施、また受講を支援(認定看護師数:50人) | 34,190 | 0 | 3 | P14 |
| 5 | 10602050 | 経営健全化推進事業 | その他 | 病院経営の改善に向けて、中期経営計画の策定や進捗管理、企画・立案や経営分析、諸統計の作成、諸課題の調整のほか、情報管理などを行い、病院事業の経営健全化を推進します。 | <ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症等を踏まえ、次期中期経営計画の策定を延期 ●高額医療機器の購入と保守契約の合併入札により、複数年のトータルコストでの競争を導入 | 287,636 | 186,643 | 4 | P16 |

主な事務事業の評価結果一覧の見方

令和2年度の主な事務事業の評価結果一覧は、各局が所管する事務事業のうち、「政策体系別計画に記載のある事務事業」及び「施策を推進する経常的な事務事業の中でも特に重要なものや進捗に遅れのあるもの」を取りまとめ、個別に進捗状況をお示したものです。

一覧の見方は次のとおりです。

令和2年度の主な事務事業の評価結果一覧(総務企画局)

| 番号 | 事務事業コード | 事務事業名 | サービス分類 | 事務事業の概要 (簡潔に記載) | 主な取組の実績 | 事業費 (千円) | | 事業の達成度 | 参考資料 掲載頁 | |
|----|----------|--------------|----------|---|---|-------------|-------------|--------|-------------|--|
| | | | | | | 予算額 | 決算額 (見込) | | | |
| 1 | 10101010 | 防災対策管理運営事業 | その他 | 国土強靱化地域計画や地域防災計画等、各種の計画を推進し、市の災害対応力の向上を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「かわさき強靱化計画」の策定 ●令和元年東日本台風の検証を踏まえた「地域防災計画(風水害対策編)」の修正 ●業務継続計画(自然災害対策編)の策定 ●川崎直下地震での想定死者数の目標を達成 ●救助実施市としての救助実施体制の整理及び各種マニュアルの整備 | 268,502 | 271,569 | 3 | P●● | ①「政策体系別計画に記載のある事務事業」及び「施策を推進する経常的な事務事業の中でも特に重要なものや進捗に遅れのあるもの」を掲載 |
| 2 | 10101020 | 地域防災推進事業 | イベント等 | 自主防災組織の育成、民間企業との連携、防災訓練や研修等による、自助・互助(互助)・公助の取組・連携の強化や各主体の防災意識の向上により、地域防災力の向上を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ●タブレット版防災広報誌を活用したコロナ禍における複合災害への対応についての啓発 ●九都県市合同防災訓練を実施したほか、区総合防災訓練を実施(計5回) ●全局を対象とした市災害対策本部図上訓練、災害対策本部研修等(5回)、風水害研修(17回)及び新型コロナウイルス感染症対策研修(16回)を実施 ●災害時の避難所運営に関する新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定、感染症対策ポケットガイドの作成 | 124,586 | 67,427 | 4 | P●● | ②市民サービス等の分類を記載 ※分類区分 ○施設の管理・運営 ○補助・助成金 ○イベント等 ○表彰・顕彰・認定 ○参加・協働の場 ○公聴及び相談・苦情申し立ての聴取等 ○許認可等 ○出版物等 ○その他 |
| 3 | 10101030 | 防災施設整備事業 | 施設の管理・運営 | 防災関連の施設、各種情報通信システム等を整備し、市の災害対応力及び地域防災力の向上を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ●同報系防災行政無線屋外受信機の増設(増設数:5台) ●戸別受信機更新及び施設割込み放送拡充 ●デジタル移動系・多重系防災行政無線の再整備工事実施 ●次期防災情報システムの設計・開発 ●備蓄計画に基づく物資の配備 | 905,541 | 706,532 | 3 | P●● | ③事務事業の概要を記載 |
| 4 | 10101040 | 臨海部・津波防災対策事業 | その他 | コンビナート災害対策や津波対策などを実施し、臨海部の総合的な防災力の向上を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ●津波避難施設への標識看板等の設置 ●臨海部広域防災訓練等の実施(情報受伝達訓練等) ●津波被害軽減研究の推進(実証実験の実施・避難シミュレーションの検討) ●津波ハザードマップの改訂 | 2,488 | 4,565 | 3 | P●● | ④令和2年度に実施した主な取組の実績を定量的な数字を含めて記載 |
| 5 | 10101050 | 帰宅困難者対策推進事業 | その他 | 一斉帰宅の抑制の周知や帰宅困難者用一時滞在施設の確保を行い、災害時における混乱を抑制するとともに、二次災害を防止します。 | <ul style="list-style-type: none"> ●帰宅困難者一時滞在施設の指定による収容人数の増加(300人増) ●川崎駅における実動訓練の実施、実動訓練が中止になった駅では、図上訓練や情報伝達訓練を実施 ●新規施設への備蓄品等の配備 ●帰宅支援ステーションの確保及び県の便りを活用した市民啓発 | 2,626 | 2,615 | 3 | P●● | ⑤令和2年度の予算額及び決算額(見込)を記載 |
| 6 | 10101070 | 本庁舎等建替事業 | その他 | 本庁舎等について災害対策活動の中枢拠点としての耐震性能を確保するため、建替えの取組を進めます。 | <ul style="list-style-type: none"> ●新本庁舎超高層棟新築工事の推進 ●新本庁舎復興棟新築工事の仮契約の締結 ●第2庁舎解体設計業務委託の契約の締結 | 2,470,129 | 2,441,545 | 4 | P●● | ⑥事務事業の達成度を記載 ※達成状況区分 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. 目標をほぼ達成 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った |
| 7 | 40205010 | 地域情報化推進事業 | その他 | 市民生活の更なる利便性の向上等を図るため、市内の公衆無線LAN環境の構築を進めるとともに、地域情報の効果的な発信を図ります。公共データを市民サービスやビジネスにつなげるため、オープンデータの公開を進め、その効果的な利活用を推進します。 | <ul style="list-style-type: none"> ●かわさきWi-Fiの利用範囲の拡張(アクセスポイント数:目標2,200か所のところ実績1,703か所) ●「かわさきアプリ」のリニューアル(アプリダウンロード数:300,754回) ●「イベントアプリ」のサービス提供(民間事業者等登録数:目標250団体のところ実績241団体) ●更なるオープンデータの公開(公開数:256データセット) ●川崎市LINE公式アカウントを活用した情報発信 | 43,553 | 32,704 | 4 | P●● | ⑦参考資料における当該事務事業の評価シートの掲載ページを記載 |
| 8 | 40205020 | 行政情報化推進事業 | その他 | 「情報化推進プラン」に基づく情報化関連施策の進捗管理を進めるとともに、マイナンバー制度の効果的・効率的な運用や、働き方・仕事の進め方改革に基づいたICTの活用を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ●情報化推進本部会議におけるデジタル化の方向性の提示 ●他の自治体等とのマイナンバーによる情報連携の安定的かつ円滑な運用 ●区役所・支所へのマイナポイント支援窓口の設置及び健康保険証利用の事前登録作業の実施 ●モバイル端末やテレビ会議等の利用促進及びテレワーク端末を利用した感染症対策関連部署における在宅勤務の実施 ●本庁舎建替えに向けた、「新本庁舎整備を契機としたワークスタイル変革ロードマップ」を各局に提示 | 133,621 | 395,160 | 3 | P●● | |

令和2年度の 事務事業の評価シート (病院局)

令和2年度 事務事業評価シート

事業の概要

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------|-------------|---------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|---|
| 事務事業 | 事務事業コード | 事務事業名 | | | | 政策体系別計画の記載 | | | | | | | | |
| | 10602010 | 川崎病院の運営 | | | | 有 | | | | | | | | |
| 担当 | 組織コード | 所属名 | | | | | | | | | | | | |
| | 833110 | 川崎病院事務局庶務課 | | | | | | | | | | | | |
| 実施期間 | 事業開始年度 | 事業終了年度 | 事務・サービス等の分類 | 分類1(市民サービス等) | 分類2(内部事務) | | | | | | | | | |
| | — | — | — | 施設の管理・運営 | — | | | | | | | | | |
| 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | | | | | | | |
| 実施根拠 | <input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例 | | | | | | | | | | | | | |
| 総合計画と連携する計画等 | 国土強靱化地域計画,まち・ひと・しごと創生総合戦略,自殺対策総合推進計画,かわさき保健医療プラン,市立病院中期経営計画,情報化推進プラン,男女平等推進行動計画 | | | | | | | | | | | | | |
| 行財政改革第2期プログラムに関連する課題名 | 改革項目 | | | 課題名 | | | | | | | | | | |
| | 取組2(10)公営企業の経営改善 | | | 11 川崎病院におけるスマート化の推進 | | | | | | | | | | |
| 予決算 (単位:千円) | 年度 | H30年度 | | R1年度 | | R2年度 | | R3年度 | | | | | | |
| | | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額(見込) | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | | |
| | 財源内訳 | 事業費 A | | 9,870,753 | 9,473,771 | 10,530,862 | 10,098,991 | 9,849,245 | 10,655,113 | 11,165,875 | 10,135,186 | 10,850,681 | 13,189,626 | |
| | | 国庫支出金 | 1 | — | 1 | 1 | — | 1 | 1 | — | 1 | 275,316 | — | |
| | | | 市債 | 638,000 | — | 1,238,000 | 771,000 | — | 1,286,000 | 1,940,262 | — | 1,481,000 | 3,219,900 | — |
| | | | その他特財 | 8,458,377 | — | 8,554,168 | 8,588,370 | — | 8,630,419 | 8,486,872 | — | 8,630,987 | 8,955,911 | — |
| | 一般財源 | 774,375 | — | 738,693 | 739,620 | — | 738,693 | 738,740 | — | 738,693 | 738,499 | — | | |
| 人件費* B | | 6,064,520 | 6,064,520 | 6,043,205 | 6,043,205 | 6,043,205 | 6,539,475 | 6,539,475 | 6,539,475 | 0 | 0 | 0 | | |
| 総コスト(A+B) | | 15,935,273 | 15,538,291 | 16,574,067 | 16,142,196 | 15,892,450 | 17,194,588 | 17,705,350 | 16,674,661 | 10,850,681 | 13,189,626 | 0 | | |
| 人工(単位:人) | | 716 | | 711.3 | | 769.35 | | | | | | | | |

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

| | |
|---|---|
| 政策体系 | 政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する |
| 事業の対象 (事業の対象となる人、物) | 市民・患者 |
| 事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか) | 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供し、市民に信頼される市立病院の運営を図ります。 |
| 事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか) | 高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院として精神科救急患者(二次、三次)の受入を行います。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入、災害拠点病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。 |
| 当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組) | ①医療機能再編整備に向けた実施設計 ②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進(救急患者受入数:29,800人以上) ③再編整備と連動したスマート化の推進(防災機能強化・中長期保全・省エネ改修) ④精神科救急医療の安定的な提供(精神保健指定医数:3人以上) ⑤地域医療支援病院の運営と連携の推進(紹介率:50%以上、逆紹介率:70%以上) ⑥がん診療連携指定病院の運営と機能の強化(がん登録数(報告値):1,350件以上) ⑦がん検診の充実 ⑧PET-CTの運用(運用件数1,100件) ⑨がん相談支援センター等のがん診療連携指定病院機能の安定的運営(がん相談件数:300人以上) |
| 当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組) | |

実施結果 (Do)

| | | |
|----------------------|---|--|
| 上記「当該年度の取組内容」に対する達成度 | 4 | 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った |
|----------------------|---|--|

取組内容の実績等

(上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)

目標を下回りました。

- ①医療機能再編整備基本計画に基づき、救命救急センター棟の新築の基本設計、既存棟の改修の実施設計に着手しました。
- ②救命救急センターの運営と効率的な受入体制整備の推進については、重症患者の搬送はほぼ断ることなく受入れ、市の基幹病院としての役割を果たしました。(三次救急応需率:94.8%)また、新型コロナウイルス感染症の影響による小児急患件数の激減や受入要請数の減少などにより救急患者受入数の目標値は達成できませんでした。(救急患者受入数:15,310人)
- ③再編整備と連動したスマート化の推進については、エネルギー棟の建設工事に着手しました。また、院内での待ち時間を快適に過ごせるよう、患者のスマートフォンから診察順番が確認できるアプリを全科に拡充しました。
- ④精神科救急医療の安定的な提供のため、精神保健指定医数3人以上を維持し、目標値を達成しました。
- ⑤地域医療支援病院の運営と連携の推進について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えにより、特に上半期は紹介患者、逆紹介患者とも大きく減少しましたが(紹介患者数:9,767人)、10月以降は前年度比で9割強程度に回復するとともに、紹介率・逆紹介率においては目標値を大幅に上回って達成し、地域医療支援病院の指定要件を維持しました。(紹介率:71.7%、逆紹介率:113.4%)
- ⑥がん診療連携指定病院の運営と機能の強化については、地域連携クリティカルパスの連携クリニックを増やすなど運用を拡大し、地域のクリニックと連携したがん診療を推進した結果、がん登録数においては目標値を大幅に上回って達成しました。(がん登録数(報告値):1,710件)
- ⑦がん検診については、胃がん内視鏡検診(週49枠)を新たに確保し、広報誌「くすの木」で受診の啓発を行い、広報を強化しましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控え等により、がん検診受診者数は2,909人でした。
- ⑧PET-CTの運用については、病院訪問や地域の医療機関への広報強化などによる共同利用の推進に努めました。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え等により、利用実績は目標値を達成できませんでした。今後も、継続的に医療機関訪問等を実施し、病院・診療所との連携を進め、広報等を通して地域におけるPET-CTの共同利用を推進していきます。(運用件数:832件)
- ⑨がん相談件数については目標値を達成しました。がん患者サロンについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を受け、集合開催を見送り、代わりにがん患者サロン通信を発行し、院内やホームページに掲載しました。(がん相談件数:306人)

その他、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、神奈川モデルの高度医療機関及び重点医療機関として、専用病床の整備・拡充を行い、延3,822人の陽性患者の入院受入れを行うとともに、病院の敷地にコンテナによる発熱者専用の外来を設置して感染疑いのある患者に対応したほか、感染有無の確認のための院内検査体制の拡充など、誰もが安心して暮らせる公的医療を提供するために、積極的に取り組みました。

| 指標分類 | 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明) | | 目標・実績 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 単位 |
|------|------------------------------|-----------------------------|---|--------|--------|--------|--------|----|
| 1 | 活動指標 | 市民公開講座開催数 | 目標 | 6 | 6 | 6 | 6 | 回 |
| | | 説明 | 市民の健康増進や医療・介護知識の習得などを目的とした、市民向け公開講座の開催回数 | 実績 | 9 | 7 | 7 | |
| 2 | 活動指標 | 災害派遣医療チームの隊員数(市DMAT) | 目標 | 30 | 30 | 30 | 30 | 人 |
| | | 説明 | 災害派遣医療チームの在籍隊員数(研修修了者) | 実績 | 46 | 46 | 42 | |
| 3 | 成果指標 | 入院患者満足度 | 目標 | 88 | 88.5 | 89.3 | 89.3 | % |
| | | 説明 | 市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合 | 実績 | 86.6 | 90.1 | 88.4 | |
| 4 | 成果指標 | 外来患者満足度 | 目標 | 78.8 | 80.2 | 81.7 | 81.7 | % |
| | | 説明 | 市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合 | 実績 | 76.2 | 68 | 69.3 | |
| 5 | 成果指標 | 紹介患者数 | 目標 | 12,000 | 12,100 | 12,200 | 12,300 | 人 |
| | | 説明 | 地域の他の医療機関から紹介されて川崎病院を受診した患者数 | 実績 | 12,305 | 11,772 | 9,767 | |
| 6 | 成果指標 | 三次救急応需率 | 目標 | 97.9 | 98.1 | 98.1 | 98.1 | % |
| | | 説明 | 救急自動車により搬送される3次救急患者の応需率(受入件数/受入要請数) | 実績 | 98.6 | 97.4 | 94.8 | |
| 7 | 成果指標 | 精神科救急患者受入数(二次・三次救急) | 目標 | 28 | 28 | 29 | 29 | 人 |
| | | 説明 | 精神科救急医療体制により受入れた患者数 | 実績 | 25 | 17 | 28 | |

評価 (Check)

| | |
|--|---|
| 事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など) | 社会保障制度改革が進められる中、医療分野においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じた、より効果的・効率的な医療提供体制の構築が求められています。公立病院の役割として、新興感染症発生・流行時における感染患者の適切な受入れが求められています。 |
| 事業の見直し・改善内容 | <input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) R 1 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 R1年度: 駐車場を貸し付け方式により民営化しました。 H29年度: 川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本計画を策定し、拡充する機能、規模、配置など計画をとりまとめました。 H28年度: 川崎市立川崎病院医療機能再編整備基本構想を策定し、医療機能再編整備の基本的な考え方をとりまとめました。 H27年度: 川崎市立病院中期経営計画2016-2020を策定し、計画期間内(H28-R2)における経営形態の現状維持等を確認するとともに、医療機能再編整備の検討を進めることとしました。 H26年度: 市立川崎病院におけるスマート化の基本方針を策定し、今後の医療需要の増加に対応する医療機能再編整備の検討を進めることとしました。 |
| 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載 できる場合は記載 | |

| 評価項目 | | 評価 | |
|---------|--|--|--|
| 必要性 | 【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？ | a. 薄れていない b. 薄れている | a |
| | 【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？ | a. 事例はない b. 事例がある | b |
| | 評価の理由 | 【市民のニーズ】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】提供する医療機能のうち、三次救急医療、精神科救急医療、感染症等の政策的医療・不採算医療については、民間医療機関の担い手が限られる中、引き続き公立病院として担っていく必要があります。 | |
| 有効性 | 【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？ | a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない | c |
| | 評価の理由 | ・市民公開講座開催数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため院内での開催を中止し、WEB及びデジタルサイネージによる開催等に切り替え、目標値を上回って達成しました。 ・入院患者満足度については食事の改善を行った結果、目標値をほぼ達成しましたが、外来患者満足度については新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中で、待ち時間に対する意識の高まりもあり、目標値を達成できませんでした。 ・三次救急応需率については新型コロナウイルス感染症患者対応のため救急病棟縮小等を行ったものの、可能な限り患者受け入れしており、市の基幹病院としての役割を果たしました。 ・精神科救急患者受入数(二次・三次救急)については、4県市協働体制の精神科救急システムを経由した入院であるため、当院のみでコントロールができるものではありませんが、前年より11人増加し、目標値をほぼ達成しました。 | |
| 効率性 | 【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？ | a. 可能性はない b. 可能性はある | b |
| | 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 評価の理由 | 【民間の活用】令和4年度導入予定のエネルギーサービスにおいて、民間ノウハウを活用したサービスの導入により、設計・施工・管理・光熱水費等のコストの削減が期待できます。 【事業手法等の見直し・質の向上】令和2年度は複数の放射線医療機器の入札を保守との合同で行い、調達・ランニング両面で経費の削減を図りました。引き続き合同入札の対象拡大等の事業手法の見直し、専門能力の向上等による質の向上に取り組みます。 | |
| 施策への貢献度 | 貢献度区分 | 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 | |
| | A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い | B | ・多くの成果指標が目標値に至らなかったものの、三次救急医療、感染症医療、精神科救急など、公立病院に求められる政策的医療等を継続的に実施し、市民に信頼される市立病院の運営を行うなど、施策に対して貢献しました。 ・新型コロナウイルス感染症への対応においては、市立病院の責務として、神奈川モデルにおける役割(高度医療機関・重点医療機関)を積極的に果たしていくため、必要な医療従事者や病床、資機材等を確保しながら、院内感染対策の徹底に取り組み、感染患者の受け入れ要請等に適切に対応しました。 |



| 改善 (Action) | | |
|--------------------------|----------------------------|-------------------------------|
| 今後の事業の方向性 | 方向性区分 | 実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 |
| | 今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所 | 変更前 (次年度計画上の記載) |
| 変更後 (上記計画上の記載に対する変更点) | | |
| | 変更の理由 | |

令和2年度 事務事業評価シート

事業の概要

| | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|------------|------------|--------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|--|
| 事務事業 | 事務事業コード | 事務事業名 | | | | 政策体系別計画の記載 | | | | | | | |
| | 10602020 | 井田病院の運営 | | | | 有 | | | | | | | |
| 担当 | 組織コード | 所属名 | | | | | | | | | | | |
| | 835110 | 井田病院事務局庶務課 | | | | | | | | | | | |
| 実施期間 | 事業開始年度 | 事業終了年度 | 事務・サービスの分類 | 分類1(市民サービス等) | 分類2(内部事務) | | | | | | | | |
| | — | — | | 施設の管理・運営 | — | | | | | | | | |
| 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | | | | | | |
| 実施根拠 | <input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例 | | | | | | | | | | | | |
| 総合計画と連携する計画等 | まち・ひと・しごと創生総合戦略, 自殺対策総合推進計画, かわさき保健医療プラン, 市立病院中期経営計画, 情報化推進プラン, 男女平等推進行動計画 | | | | | | | | | | | | |
| 行財政改革第2期プログラムに関連する課題名 | 改革項目 | | | 課題名 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 予決算 (単位: 千円) | 年度 | H30年度 | | R1年度 | | R2年度 | | R3年度 | | | | | |
| | | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額(見込) | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | |
| | 事業費 A | 5,130,056 | 4,514,508 | 4,724,959 | 4,729,336 | 4,865,035 | 4,989,114 | 4,968,798 | 4,726,929 | 4,989,113 | 5,911,762 | | |
| | 財源内訳 | 国庫支出金 | 1 | — | 1 | 1 | — | 1 | 1 | — | 1 | 1 | |
| | | 市債 | 518,000 | — | 116,000 | 356,000 | — | 341,000 | 292,038 | — | 341,000 | 1,099,500 | |
| | | その他特財 | 4,128,046 | — | 4,161,292 | 3,924,143 | — | 4,200,447 | 4,228,792 | — | 4,200,446 | 4,364,595 | |
| | | 一般財源 | 484,009 | — | 447,666 | 449,192 | — | 447,666 | 447,967 | — | 447,666 | 447,666 | |
| 人件費※ B | 3,982,425 | 3,982,425 | 4,102,124 | 4,102,124 | 4,102,124 | 4,086,630 | 4,086,630 | 4,086,630 | 0 | 0 | 0 | | |
| 総コスト(A+B) | 9,112,481 | 8,496,933 | 8,827,083 | 8,831,460 | 8,967,159 | 9,075,744 | 9,055,428 | 8,813,559 | 4,989,113 | 5,911,762 | 0 | | |
| 人工(単位: 人) | 470.18 | | 482.83 | | 480.78 | | | | | | | | |

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

| | | |
|---|--|----------------------|
| 政策体系 | 政策 | 市民の健康を守る |
| | 施策 | 信頼される市立病院の運営 |
| | 直接目標 | 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する |
| 事業の対象 (事業の対象となる人、物) | 市民・患者 | |
| 事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか) | 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供し、市民に信頼される市立病院の運営を図ります。 | |
| 事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか) | 南部地域の中核病院・地域がん診療連携拠点病院として、増大するがん等の成人疾患医療、救急医療、緩和ケア医療を担うほか、市内唯一の結核病床を有する病院として、結核患者への透析の対応も行っていきます。また、臨床研修指定病院等として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上にも寄与しています。 | |
| 当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組) | ①救急医療の充実に向けた取組の推進(救急患者受入数:9,200人以上) ②手術支援ロボット、内視鏡下治療、化学療法の実施によるがん診療の推進(がん登録数(報告値):1,300件以上) ③がん検診及び人間ドックの充実 ④緩和ケアの継続的な提供(緩和ケア患者受入数:552人以上) ⑤川崎病院とのがん診療に関わる連携強化 ⑥地域包括ケア病棟の活用と、回復期機能の充実(地域包括ケア病棟稼働率:85%以上) ⑦地域医療機関との連携による機能分化の推進 ⑧在宅復帰・在宅療養支援の充実(訪問診療件数:1,700人以上) | |
| 当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組) | | |

実施結果 (Do)

| | | |
|----------------------|---|--|
| 上記「当該年度の取組内容」に対する達成度 | 4 | 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った |
|----------------------|---|--|

取組内容の実績等
 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等でより具体的に実績を示すことができる取組」、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載)

目標を下回りました。
 ①救急医療の充実に向けた取組の推進については、準夜帯に救急医を配置するなど、引き続き川崎病院及び院内各部門の連携強化に取り組み、受入体制の充実を図りました。しかし、新型コロナウイルス感染症患者の診療に対応するため、一時的に救急後方病床を新型コロナウイルス感染症患者専用とし、救急患者の入院を制限したことや、救急車の受入れを制限した期間があったこと、救急要請件数の減少や新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えなどがあったことから目標値は達成できませんでしたが、(救急患者受入数:6,934人)
 ②がん診療の推進については、放射線治療科専門医を常勤で配置し体制強化を図った結果、がん登録数においては目標値を達成しました。(がん登録数(報告値):1,445件)
 ③がん検診及び人間ドックの充実については、井田病院で人間ドックを申し込んだ方が川崎病院でのPET-CT検査を受けられる体制の充実にも努めましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控え等により、がん検診受診者数は4,651人でした。
 ④緩和ケアの継続的な提供については、患者やその家族に対し、外来・入院・在宅と切れ目のない緩和ケアを提供しました。入院患者の減少に伴い、緩和ケアの介入依頼件数が減少したため、目標値は達成できませんでしたが、今後はスクリーニングの強化やリンクナースの協力を得て、介入件数が増加するように努め、受入数確保に取り組んでいきます。(緩和ケア患者受入数:489人)
 ⑤川崎病院とのがん診療に関わる連携強化については、川崎病院にあるPET-CTの共同利用など、市立病院間での連携を強化し、充実にも努めました。
 ⑥地域包括ケア病棟の活用については、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者数が減少し病床稼働率は低下しました。院内外からの患者受入増加に向けて、院内における他職種及び他病院との連携、情報共有を積極的に進めていきます。(地域包括ケア病棟稼働率:73.5%)
 ⑦地域医療機関との連携による機能分化の推進については、地域連携の会に代わる病院の取組を紹介する動画の作成やクリニック訪問等により地域の医療機関との連携強化に努めました。
 ⑧在宅復帰・在宅療養支援の充実については、医療依存度の高い患者に対し、在宅診療、訪問看護を行いました。また、在宅療養後方支援病院として地域の往診医からの要請に基づき、緊急の診療や入院が必要になった際に24時間対応を行えるように体制を整備しました。さらに、外来・病棟・退院調整看護師等が連携し、退院前後の患者訪問を効果的に行いながら、円滑な退院調整・退院支援に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者の減少に伴い、在宅移行患者も減少したため目標の件数は達成できませんでしたが、引き続き緩和ケア病棟と在宅部門との連携を強化し、在宅支援につなげていきます。(訪問診療件数:1,212人)

なお、市民公開講座やがんサロン開催数については新型コロナウイルス感染症の影響により、事業手法の見直し等を行った結果、目標値を達成することはできませんでしたが、高齢者福祉施設等を対象とした感染対策出前講座を新たに実施し、市民の意識啓発や地域と連携した感染症対策を推進しました。今後はオンライン形式を含め新型コロナウイルス感染症に配慮した開催手法について、引き続き検討していきます。

また、内視鏡治療件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えにより、目標値を達成できませんでした。今後も引き続き市民公開講座や出前講座等による啓発活動に取り組み、治療件数確保に取り組んでいきます。

その他、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、神奈川モデルの重点医療機関として、専用病床の整備・拡充を行い、延4,606人の陽性患者の入院受入れを行うとともに、病院の敷地にコンテナによる発熱者専用の外来を設置して感染疑いの患者に対応したほか、感染有無の確認のための院内検査体制の拡充など、誰もが安心して暮らせる公的医療を提供するために、積極的に取り組みました。

| 指標分類 | 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明) | 目標・実績 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 単位 |
|------|---|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| 1 | 活動指標 市民公開講座等開催数 | 目標 | 12 | 12 | 12 | 12 | 回 |
| | 説明 市民の健康増進や医療・介護知識の習得などを目的とした、市民向け公開講座や出前講座の開催回数 | 実績 | 13 | 13 | 8 | — | |
| 2 | 活動指標 がんサロン開催数 | 目標 | 22 | 22 | 22 | 22 | 回 |
| | 説明 がん患者とその家族が、診察室以外の場所で、日常の悩みの相談など自由に語れる場所であるがんサロンの開催数 | 実績 | 23 | 20 | 0 | — | |
| 3 | 成果指標 入院患者満足度 | 目標 | 90.7 | 91 | 91.3 | 91.3 | % |
| | 説明 市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合 | 実績 | 90.5 | 93.1 | 89.6 | — | |
| 4 | 成果指標 外来患者満足度 | 目標 | 82 | 82.3 | 82.6 | 82.6 | % |
| | 説明 市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合 | 実績 | 82.4 | 84.4 | 85.2 | — | |
| 5 | 成果指標 紹介患者数 | 目標 | 6,230 | 6,350 | 6,470 | 6,590 | 人 |
| | 説明 地域の他の医療機関から紹介されて井田病院を受診した患者数 | 実績 | 6,687 | 6,589 | 5,648 | — | |
| 6 | 成果指標 内視鏡治療件数 | 目標 | 703 | 711 | 720 | 720 | 件 |
| | 説明 内視鏡により治療を行った件数 | 実績 | 745 | 758 | 625 | — | |

評価 (Check)

| | |
|--|--|
| 事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など) | 社会保障制度改革が進められる中、医療分野においては、患者ニーズに応じた病院・病床機能の役割分担や、医療機関間、医療と介護の間の連携を通じた、より効果的・効率的な医療提供体制の構築が求められています。公立病院の役割として、新興感染症発生・流行時における感染患者の適切な受入れが求められています。 |
| 事業の見直し・改善内容 | <input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 29 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 |
| 具体的見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 | H29年度: 効率的な診療体制を構築するため、井田病院の脳神経外科及び呼吸器外科の医師を川崎病院に集約しました。井田病院では、川崎病院との兼務体制により、外来診療を継続することとしました。また、駐車場を貸し付け方式により民営化し、有料化しました。 H27年度: H28年度からR2年度までを計画期間とする中期経営計画を策定し、計画期間内における経営形態の現状維持等を確認しました。 H26年度: 新棟の全面開院に合わせた強化をしました。(救急センター、内視鏡センター、化学療法センターなど) H24年度: 新棟の一部開院に合わせた医療機能の強化をしました。(病棟機能の全面移転による病床再編、外来スペースの集約) H21年度: 再編整備計画の策定による医療機能の見直しをしました。(工事期間における計画) |

| 評価項目 | | 評価 | |
|-------------|--|--|--|
| 必要性 | 【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？ | a. 薄れていない b. 薄れている | a |
| | 【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？ | a. 事例はない b. 事例がある | b |
| | 評価の理由 | 【市民のニーズ】高齢社会の進展や感染症への対応などに伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】提供する医療機能のうち、救急、感染症等の政策的医療・不採算医療については、民間医療機関の担い手が限られる中、引き続き公立病院として担っていく必要があります。 | |
| 有効性 | 【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？ | a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない | c |
| | 評価の理由 | ・成果指標のうち、外来患者満足度については目標値を達成、入院患者満足度については、食事の改善を行った結果、前年度からは低下したものの目標値をほぼ達成しました。 ・市民公開講座等開催数及びがんサロン開催数については、新型コロナウイルス感染症対策として事業手法の見直し等を行ったことから、目標値を達成できませんでした。 ・紹介患者数及び内視鏡治療件数については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う受診控えにより、目標値を達成できませんでした。 | |
| 効率性 | 【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？ | a. 可能性はない b. 可能性はある | b |
| | 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 評価の理由 | ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策に注力することとなりました。 ・自動免疫染色装置の入札を消耗品との合同で行い、調達経費の削減を図りました。引き続き、仕様の精査等を行うことによる一層のコスト削減に取り組むとともに、収益の確保、患者サービス向上の取組を推進していきます。 | |
| 施策への 貢献度 | 貢献度区分 | 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 | |
| | A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い | B | 多くの指標が目標達成に至らなかったものの、救急医療や感染症医療など、公立病院として求められる政策的医療等を継続的に提供するとともに、緩和ケアをはじめとしたがん診療や地域包括ケア病棟の運営、在宅療養後方支援病院の取組など、地域のニーズを踏まえた医療を提供しました。 ・市民公開講座やがんサロン、医療従事者を対象とした症例検討会等は、新型コロナウイルス感染症の影響により院内での開催回数が減少しましたが、高齢者福祉施設等を対象とした感染対策出前講座を新たに実施し、市民の意識啓発や地域と連携した感染症対策を推進しました。 ・新型コロナウイルス感染症への対応においては、市立病院の責務として、神奈川モデルにおける役割(重点医療機関)を積極的に果たしていくため、必要な医療従事者や病床、資機材等を確保しながら、院内感染対策の徹底に取り組み、感染患者の受入れ要請等に適切に対応しました。 |

| 改善 (Action) | | |
|----------------------------|--|-------------------------------|
| 今後の事業の方向性 | 方向性区分 | 実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 |
| | I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了 | II |
| 今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所 | 変更前 (次年度計画上の記載) | |
| | 変更後 (上記計画上の記載に対する変更点) | |
| | 変更の理由 | |

令和2年度 事務事業評価シート

事業の概要

| | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|-----------|-------------|---------------|-----------|------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 事務事業 | 事務事業コード | 事務事業名 | | | | 政策体系別計画の記載 | | | | | | |
| | 10602030 | 多摩病院の運営管理 | | | | 有 | | | | | | |
| 担当 | 組織コード | 所属名 | | | | | | | | | | |
| | 832000 | 病院局経営企画室 | | | | | | | | | | |
| 実施期間 | 事業開始年度 | 事業終了年度 | 事務・サービス等の分類 | 分類1(市民サービス等) | 分類2(内部事務) | | | | | | | |
| | 平成17年度 | — | 施設の管理・運営 | — | | | | | | | | |
| 実施形態 | <input type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | | | | | |
| 実施根拠 | <input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 川崎市病院事業の設置等に関する条例 | | | | | | | | | | | |
| 総合計画と連携する計画等 | まち・ひと・しごと創生総合戦略,かわさき保健医療プラン,市立病院中期経営計画 | | | | | | | | | | | |
| 行財政改革第2期プログラムに関連する課題名 | 改革項目 | | | 課題名 | | | | | | | | |
| | 取組2(10)公営企業の経営改善 | | | 9 多摩病院の効率的な運営 | | | | | | | | |
| 予決算 (単位:千円) | 年度 | H30年度 | | R1年度 | | R2年度 | | R3年度 | | | | |
| | | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | | | |
| | 事業費 A | 827,660 | 762,946 | 839,726 | 865,877 | 870,309 | 856,806 | 828,632 | 828,386 | 866,807 | 893,413 | |
| | 財源内訳 | 国庫支出金 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| | | 市債 | 137,000 | — | 150,000 | 173,000 | — | 166,000 | 146,700 | — | 176,000 | 214,700 |
| | | その他特財 | 180,341 | — | 179,828 | 181,734 | — | 180,908 | 174,270 | — | 180,909 | 161,331 |
| | | 一般財源 | 510,319 | — | 509,898 | 511,143 | — | 509,898 | 507,662 | — | 509,898 | 517,382 |
| 人件費* B | 15,670 | 15,670 | 15,548 | 15,548 | 15,548 | 15,555 | 15,555 | 15,555 | 0 | 0 | | |
| 総コスト(A+B) | 843,330 | 778,616 | 855,274 | 881,425 | 885,857 | 872,361 | 844,187 | 843,941 | 866,807 | 893,413 | | |
| 人工(単位:人) | 1.85 | | 1.83 | | 1.83 | | 1.83 | | | | | |

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

計画 (Plan)

| | |
|---|---|
| 政策体系 | 政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する |
| 事業の対象 (事業の対象となる人、物) | 市民・患者 |
| 事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか) | 誰もが安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に提供し、市民に信頼される市立病院の運営を図ります。 |
| 事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか) | 指定管理者制度を導入し、民間活力を活かした効果的かつ効率的な病院運営を行います。基本的医療機能として、救急医療、小児救急医療、災害時医療を中心に、小児から成人、高齢者・妊産婦等への医療の提供を行います。また、救急及び急性期医療を軸とする中核病院としての役割を果たせるよう、さらには市立病院として適切な運営が行えるよう、指定管理者(聖マリアンナ医科大学)への指導・管理を行います。 |
| 当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組) | ①指定管理者制度を活用した効率的な病院運営の推進 ②外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取(多摩病院運営協議会の開催:年2回以上) ③市北部地域の中核病院として、救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進(救急患者受入数:13,000人以上) ④長寿命化に向けた適切な施設維持の実施、医療需要に基づいた確かな医療機器更新の推進 |
| 当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組) | |

実施結果 (Do)

| | | |
|---|---|--|
| 上記「当該年度の取組内容」に対する達成度 | 4 | 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った |
| 取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載) | 目標を下回りました。 ①指定管理者制度を活用した効率的な病院運営の推進については、電話やメール、場合によっては直接多摩病院に赴き、各種必要な情報を適切に伝達するとともに、指定管理者と課題や問題点等について協議し、調整及び解決を図り、適切に病院運営を推進しました。 ②外部有識者等第三者による病院の管理運営状況に対する意見聴取については、市立病院運営委員会における審議を3回、モニター会議を通じた意見聴取を1回実施しました。 ③市北部地域の中核病院として、救急及び急性期医療を中心とする良質な医療を安定的に提供する取組の推進については、24時間365日の救急医療・小児救急医療等を実施しました。しかし、救急災害医療センターや一般病床の一部を利用した新型コロナウイルス感染症患者受入体制の確保や新型コロナウイルス感染症の影響による受診控え、救急要請件数の減少などにより病床利用率及び救急患者受入数は大幅に減少しました。(病床利用率64.9%、救急患者受入数7,820人) ④長寿命化に向けた適切な施設維持の実施、医療需要に基づいた確かな医療機器更新の推進については、軽易工事、建設改良工事等を実施するとともに超音波診断装置等を更新しました。 その他、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、神奈川モデルの重点医療機関として、専用病床の整備・拡充を行い、延2,451人の陽性患者の入院受入れを行うとともに、病院の敷地にコンテナによる発熱者専用の外来を設置して感染疑いのある患者に対応したほか、感染有無の確認のための院内検査体制の拡充など、誰もが安心して暮らせる公的医療を提供するために、積極的に取り組めました。 | |

| 指標分類 | 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明) | 目標・実績 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 単位 |
|--------|---|-------|-------|------|------|------|----|
| 1 活動指標 | 多摩病院運営協議会等の開催回数 | 目標 | 2 | 2 | 2 | 2 | 回 |
| | 説明 市立病院運営委員会における審議、モニター会議を通じた患者サービス向上に関する意見要望等の聴取回数 | 実績 | 4 | 3 | 4 | — | |
| 2 成果指標 | 入院患者満足度 | 目標 | 88 | 88.6 | 89.3 | 89.3 | % |
| | 説明 市立病院で実施している入院患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足のうち5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合 | 実績 | 84.9 | 86.4 | 90 | — | |
| 3 成果指標 | 外来患者満足度 | 目標 | 79.7 | 80.7 | 81.7 | 81.7 | % |
| | 説明 市立病院で実施している外来患者の満足度調査(有効回答数概ね300)において、満足～不満足のうち5段階のうち、満足(満足+やや満足)と回答した人の割合 | 実績 | 73.5 | 79.1 | 85.6 | — | |

| | | | | | | | | |
|---|------|--|----|--------|--------|--------|--------|---|
| 4 | 成果指標 | 病床利用率(一般) | 目標 | 80 | 80 | 80 | 80 | % |
| | | 説明 病院のベッドの利用状況の割合 入院延患者数/年間の許可病床数(入院延患者数の受入最大値)×100(%) | 実績 | 81.9 | 83 | 64.9 | — | |
| 5 | 成果指標 | 救急患者受入数 | 目標 | 12,400 | 12,700 | 13,000 | 13,000 | 人 |
| | | 説明 夜間や休日等の診療時間外に診察等を受けた患者数及び診療時間内に救急車で搬送された患者数の合計 | 実績 | 13,023 | 13,256 | 7,820 | — | |

評価 (Check)

| | |
|---|---|
| 事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など) | 将来的に人口増加が予測されている川崎市北部地域では、特に小児を含む救急医療の確保についての市民要望がこれから益々高まっていくことが見込まれています。そのため、北部地域の中核病院として救急・急性期医療を中心とする医療ニーズに対応した、質の高い安全で安心な医療サービスの提供を継続することが求められています。公立病院の役割として、新興感染症発生・流行時における感染患者の適切な受入れが求められています。 |
| 事業の見直し・改善内容 | <input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 24 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 |
| 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 | H24年度:平成24年4月1日から利用料金制度へ移行しました。 |

| 評価項目 | | 評価 | |
|------|--|---|---|
| 必要性 | 【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？ | a. 薄れていない b. 薄れている | a |
| | 【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？ | a. 事例はない b. 事例がある | b |
| | 評価の理由 | 【市民のニーズ】人口増加による小児救急医療、高齢化の進展による救急搬送の増加等への対応のため、北部地域の中核病院として救急・急性期医療を中心とする医療ニーズに対応した、質の高い安全で安心な医療サービスの提供を継続することが求められています。 【市が実施する必要性】本事業は指定管理者制度による市立病院の運営管理であり、民間を活用した効率的な病院運営については実施済みです。 | |
| 有効性 | 【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？ | a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない | b |
| | 評価の理由 | 患者満足度については、入院・外来とも目標を達成しましたが、新型コロナウイルス感染症患者受入体制確保のための病床休止の影響等により病床利用率、救急患者受入数については目標値を達成できませんでした。 | |
| 効率性 | 【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | c |
| | 【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？ | a. 可能性はない b. 可能性はある | a |
| | 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | a |
| | 評価の理由 | 指定管理者制度は開院当初から実施済みであり、現状からの更なる効率性を求める場合には、指定管理者の交代や指定管理者制度を廃止し、病院自体を民間に譲渡するなどの措置を講ずることが必要です。 | |

| | | |
|---------|--|---|
| 施策への貢献度 | 貢献度区分 | 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 |
| | A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い | B ・多摩病院の設立経緯が、川崎北部保健医療圏の病床数及び救急医療体制の不足に対処するため、3番目の市立病院を整備することになったことから、救急医療の提供は多摩病院が果たすべき最も重要な医療機能です。勤務医不足など厳しい環境下において、開院以来、24時間365日の救急医療体制を堅持し、救急患者を受け入れていますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応により受入れ件数が大幅に減少しました。 ・小児救急医療については、小児科第二次応需病院及び休日第二次応需病院(小児科)として、全休日及び毎夜間(365日)における小児救急搬送患者の受入体制を維持し、施策に対して貢献しています。 |

改善 (Action)

| | | |
|----------------------------|--|--|
| 今後の事業の方向性 | 方向性区分 | 実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 |
| | I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了 | I ・診療待ち時間等の満足度を上げるため、平成31年1月に、診察が近づいたら通知する機能や予約状況、近隣の医療機関検索ができるスマートフォンアプリを導入し、利用登録者数は1,400人を超えました。また、令和2年度はタブレット・スマートフォンを利用した、聴覚障害者のための手話通訳を含む多言語映像通訳サービスを導入し患者サービスの向上を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度に予定していた院内Wi-Fi整備を行うことができませんでした。今後も患者本位の医療の提供に向けた取組を推進していきます。 ・救急患者受入数については、今後も新型コロナウイルス感染症患者への対応と通常救急医療を両立しながら、受入数確保に取り組み、病床利用率上昇に繋げていきます。 ・「神奈川モデル」における「重点医療機関」として、新型コロナウイルス感染症の中等症患者の受入を適切に行います。また、各種検診の受入やイベント等について、感染拡大防止のための休止や延期等も含め、状況に応じて適切に対応します。 ・今後とも増大する医療需要に対して、公立病院としての使命と役割を果たすため、指定管理者制度を活用した効率的な病院運営を推進していきます。 |
| 今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所 | 変更前 (次年度計画上の記載) | |
| | 変更後 (上記計画上の記載に対する変更点) | |
| | 変更の理由 | |

令和2年度 事務事業評価シート

| 事業の概要 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|------------|--------|--------------|--------|-----------|--------|---------|------------|--------|--------|
| 事務事業 | 事務事業コード | 事務事業名 | | | | | | | | 政策体系別計画の記載 | | |
| | 10602040 | 良質な医療の提供を担う人材の確保・育成事業 | | | | | | | | 有 | | |
| 担当 | 組織コード | 所属名 | | | | | | | | | | |
| | 831100 | 病院局総務部庶務課 | | | | | | | | | | |
| 実施期間 | 事業開始年度 | 事業終了年度 | 事務・サービスの分類 | | 分類1(市民サービス等) | | 分類2(内部事務) | | | | | |
| | — | — | | | その他 | | 内部管理 | | | | | |
| 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | | | | | |
| 実施根拠 | <input type="checkbox"/> 国・県の制度 <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 地方公務員法、地方公営企業法 | | | | | | | | | | | |
| 総合計画と連携する計画等 | まち・ひと・しごと創生総合戦略、かわさき保健医療プラン、市立病院中期経営計画、人材施策推進基本計画、男女平等推進行動計画 | | | | | | | | | | | |
| 行財政改革第2期プログラムに関連する課題名 | 改革項目 | | | | | 課題名 | | | | | | |
| 予決算 (単位:千円) | 年度 | H30年度 | | R1年度 | | R2年度 | | | R3年度 | | | |
| | | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額(見込) | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 |
| | 財源内訳 | 事業費 A | 0 | 0 | 0 | 33,616 | 0 | 0 | 34,190 | 0 | 0 | 63,156 |
| | | 国庫支出金 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| | | 市債 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| | | その他特財 | 0 | — | 0 | 33,616 | — | 0 | 34,190 | — | 0 | 63,156 |
| | | 一般財源 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 | — | 0 | 0 |
| | 人件費※ B | 27,951 | 27,951 | 28,037 | 28,037 | 28,037 | 20,400 | 20,400 | 20,400 | 0 | 0 | 0 |
| | 総コスト(A+B) | 27,951 | 27,951 | 28,037 | 61,653 | 28,037 | 20,400 | 54,590 | 20,400 | 0 | 63,156 | 0 |
| | 人工(単位:人) | 3.3 | | 3.3 | | 2.4 | | | | | | |

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

| 計画 (Plan) | |
|---|---|
| 政策体系 | 政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する |
| 事業の対象 (事業の対象となる人、物) | 人材の確保:市立病院に就職を予定している人 人材の育成:本市病院事業職員 |
| 事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか) | 優秀な医療人材の安定確保及び医療に関わる高度な知識と経営感覚を兼ね備えた職員の育成を進めることにより、良質な医療の提供を図ります。 |
| 事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか) | 効果的な広報活動、柔軟な採用選考、多様な任用制度の活用等により、採用困難職種である医師、看護師等の確保に取り組むとともに、局人材育成計画に基づき、各種研修の充実、受講支援等を行い、職員の人材育成と能力開発に努めます。 |
| 当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組) | ①医師・看護師等の人員体制の検討(地域における医療需要や必要な医療機能を踏まえた医療提供体制の検討) ②効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保(助産師・看護師の合同就職説明会:年19回以上開催) ③人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成(認定看護師:全47人以上) |
| 当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組) | |

| 実施結果 (Do) | | | | | | | | | | |
|---|------------------------------|--|--|-----------------------------|-------|------|------|------|----|---|
| 上記「当該年度の取組内容」に対する達成度 | | 3 | 1. 目標を大きく上回って達成 2. 目標を上回って達成 3. ほぼ目標どおり | 4. 目標を下回った 5. 目標を大きく下回った | | | | | | |
| 取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載) | | ほぼ目標どおり達成できました。 ①各病院の機能や需要に応じた適切な人員体制について検討を行い、川崎病院におけるリハビリテーション提供体制の強化や無菌室整備、更には川崎病院及び井田病院における薬剤療法の質の向上等のため、療法士、看護師及び薬剤師の増員を図ることとして定数条例の改正を行いました。次年度以降、順次、当該職種職員の確保を進めていきます。 ②効果的な広報活動、柔軟な採用選考の実施及び多様な任用制度の活用による医療人材の確保について、人材派遣会社等が主催する助産師・看護師の合同就職説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止を理由として主催者により計6回中止となりましたが、オンライン開催への変更や追加出展などにより、15回開催することができました。今後は、WEB上で実施される就職説明会や学校主催の説明会への参加等、新たな手法を活用していきます。 ③人材育成計画に基づく各種研修の企画、実施及び受講支援など病院運営を担う医療人材の育成については認定看護師数は、井田病院で1名増え、川崎病院及び井田病院合わせて50人となり、目標を上回って達成できました。 | | | | | | | | |
| 指標分類 | 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明) | | | 目標・実績 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 単位 | |
| 1 | 活動指標 | 助産師・看護師の合同就職説明会の開催数 | | | 目標 | 19 | 19 | 19 | 19 | 回 |
| | | 説明 | 市民を問わず助産師・看護師の採用を予定している病院が、求職者に対して就職を勧奨するために参加する合同の説明会の年間開催数(ブース出展数) | | | 実績 | 17 | 14 | 15 | |
| 2 | 成果指標 | 認定看護師数 | | | 目標 | 43 | 45 | 47 | 47 | 人 |
| | | 説明 | 特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる看護師として日本看護協会が認定した看護師の川崎病院・井田病院の在職者数 | | | 実績 | 48 | 49 | 50 | |
| 3 | | | | | 目標 | | | | | |
| | | 説明 | | | | 実績 | | | | |
| 4 | | | | | 目標 | | | | | |
| | | 説明 | | | | 実績 | | | | |

| 評価 (Check) | | | |
|--|---|---|---------------------------------|
| 事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など) | | 小児科医、産科医をはじめとして、全国的な医師不足となっています。また、税・社会保障一体改革における推計において、団塊の世代が後期高齢者となる令和7年には、看護職員は3万人～13万人が不足すると見込まれています。 | |
| 事業の見直し・改善内容 | | <input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 | |
| 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 | | H27年度: 病院医事課に配置する事務系専門職種である医療事務職の採用選考を実施しました。 H25年度: 助産師・看護師の採用選考案内の作成を年度一括に変更し、経費を削減しました。 H24年度: 看護師確保のための学校訪問について、採用者実績に応じた重点訪問方式に見直しました。 | |
| 評価項目 | | 評価 | |
| 必要性 | 【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか？ | a. 薄れていない b. 薄れている | a |
| | 【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか？ | a. 事例はない b. 事例がある | a |
| | 評価の理由 | 本事業の実施については、医療制度改革、診療報酬改定等の国の制度改革の影響を直接に受けるため、これらの動向を注視しながら、本市立病院が担うべき医療機能にふさわしい人材の育成・確保に取り組む必要があります。 | |
| 有効性 | 【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか？ | a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない | a |
| | 評価の理由 | 成果指標(認定看護師数)も目標値を上回って達成しており、看護師確保についても、7対1看護配置基準の維持に必要な看護師を確保しています。 | |
| 効率性 | 【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | a |
| | 【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか？ | a. 可能性はない b. 可能性はある | b |
| | 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか？ | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 評価の理由 | 良質な人材確保について、より効果的な広報活動による改善が考えられます。人材育成については、局内で開催する研修をはじめ、職種や専門分野ごとの学会や職能団体等が実施する研修への参加により、医療提供に必要な知識や技術の向上、より高度な資格取得に向けた支援に取り組んでいます。 | |
| 施策への貢献度 | 貢献度区分 | 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 | |
| | A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い | A | 医師・看護師等の人材確保を図り、医療提供体制を維持しています。 |

| 改善 (Action) | | | |
|----------------------------|--|--------------------------------------|--|
| 今後の事業の方向性 | 方向性区分 | 実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 | |
| | I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了 | II | ・引き続き、今後の地域における医療需要や必要な医療機能を踏まえた適切な医療提供体制を検討し、必要な職員の確保と育成を進めていきます。 ・医療人材確保に向けた助産師・看護師の合同就職説明会の開催について、新型コロナウイルス感染症拡大防止を目的に主催者による中止が相次いでいるため、WEB上で実施される就職説明会や学校主催の説明会への参加等、新たな手法を活用していきます。 ・職員を対象とした局内で開催される研修等について、開催手法・参加手法を工夫し、必要な研修に参加できるよう支援していきます。 |
| 今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所 | 変更前 (次年度計画上の記載) | | |
| | 変更後 (上記計画上の記載に対する変更点) | | |
| | 変更の理由 | | |

令和2年度 事務事業評価シート

| 事業の概要 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|---|------------------|-------------|--------------|------------------|--------------------------------------|-------------------------|---------|------------|---------|---------|---------|
| 事務事業 | 事務事業コード | 事務事業名 | | | | | | | 政策体系別計画の記載 | | | |
| | 10602050 | 経営健全化推進事業 | | | | | | | 有 | | | |
| 担当 | 組織コード | 所属名 | | | | | | | | | | |
| | 832000 | 病院局経営企画室 | | | | | | | | | | |
| 実施期間 | 事業開始年度 | 事業終了年度 | 事務・サービス等の分類 | 分類1(市民サービス等) | 分類2(内部事務) | | | | | | | |
| | 平成17年 | — | | その他 | 政策推進計画等(策定・進行管理) | | | | | | | |
| 実施形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 市が直接実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託・指定管理 <input type="checkbox"/> ボランティア等との協働 <input type="checkbox"/> その他 | | | | | | | | | | | |
| 実施根拠 | <input checked="" type="checkbox"/> 国・県の制度 <input type="checkbox"/> 国・県の制度+市独自の制度 <input type="checkbox"/> 市独自の制度 (法令・要綱等) 新公立病院改革ガイドライン(H27.3、総務省自治財政局長通知) | | | | | | | | | | | |
| 総合計画と連携する計画等 | まち・ひと・しごと創生総合戦略、かわさき保健医療プラン、市立病院中期経営計画 | | | | | | | | | | | |
| 行財政改革第2期プログラムに関連する課題名 | 改革項目 | | | | | 課題名 | | | | | | |
| | 取組2(10)公営企業の経営改善 | | | | | 8「川崎市立病院中期経営計画2016-2020」に基づく経営健全化の推進 | | | | | | |
| | | 取組2(10)公営企業の経営改善 | | | | | 10入院・外来自己負担金に関する債権対策の推進 | | | | | |
| 予決算 (単位:千円) | 年度 | H30年度 | | R1年度 | | | R2年度 | | | R3年度 | | |
| | | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 | 計画事業費 | 予算額 | 決算額(見込) | 計画事業費 | 予算額 | 決算額 |
| | 財源内訳 | 事業費 A | 282,792 | 151,272 | 261,036 | 322,122 | 191,002 | 263,282 | 287,636 | 186,643 | 263,281 | 274,572 |
| | | 国庫支出金 | 0 | - | 0 | 0 | - | 0 | 0 | - | 0 | 0 |
| | | 市債 | 0 | - | 0 | 0 | - | 0 | 0 | - | 0 | 53,900 |
| | | その他特財 | 254,204 | - | 232,448 | 293,534 | - | 234,694 | 259,048 | - | 234,693 | 192,084 |
| | | 一般財源 | 28,588 | - | 28,588 | 28,588 | - | 28,588 | 28,588 | - | 28,588 | 28,588 |
| | 人件費 [※] B | 51,667 | 51,667 | 51,826 | 51,826 | 51,826 | 51,850 | 51,850 | 51,850 | 0 | 0 | 0 |
| | 総コスト(A+B) | 334,459 | 202,939 | 312,862 | 373,948 | 242,828 | 315,132 | 339,486 | 238,493 | 263,281 | 274,572 | 0 |
| | 人工(単位:人) | 6.1 | | 6.1 | | | 6.1 | | | | | |

※ 人件費は、予算・決算における職員1人当たり人件費に、人工を乗じて算出

| 計画 (Plan) | |
|---|--|
| 政策体系 | 政策 市民の健康を守る 施策 信頼される市立病院の運営 直接目標 誰もが安心して暮らせる公的医療を提供する |
| 事業の対象 (事業の対象となる人、物) | 病院事業会計 |
| 事業の目的 (対象をどのような状態にしたいか) | 市立病院の経営の健全化を推進し、信頼される安全・安心な医療サービスを安定的かつ継続的に受けられるようにします。 |
| 事業の内容 (どういった業務内容で、どのような手段で実施しているか) | 病院経営の改善に向けて、中期経営計画の策定や進捗管理、企画・立案や経営分析、諸統計の作成、諸課題の調整のほか、情報管理などを行い、病院事業の経営健全化を推進します。 |
| 当該年度の取組内容 (第2期実施計画に記載されている具体的な当該年度の取組) | ①川崎市立病院中期経営計画に基づく安定的な病院運営及び経営の効率化の推進 ②計画的・戦略的な設備・医療機器の整備 ③患者サービスの向上に資する取組の推進 |
| 当初計画からの変更箇所 (上記計画に記載されている内容から変更となる取組) | |

| 実施結果 (Do) | |
|---|--|
| 上記「当該年度の取組内容」に対する達成度 | 4 1. 目標を大きく上回って達成 4. 目標を下回った 2. 目標を上回って達成 5. 目標を大きく下回った 3. ほぼ目標どおり |
| 取組内容の実績等 (上記に掲げた取組内容に対し、「数値等」でより具体的に実績を示すことができる取組、又は「未達成部分」若しくは「より達成できた部分」を記載) | 目標を下回りました。 ①新型コロナウイルス感染症の影響による患者数の減少により、医療収益が大幅に減少し、経常収支比率は川崎病院、井田病院ともに目標を達成できませんでした。また、次期中期経営計画の策定については、新型コロナウイルス感染症の収束やその後の受診動向が不透明な状況の中で、具体的な取組や成果指標の設定は難しいことから、策定を1年延期することとしました。 ②計画的・戦略的な設備・医療機器の整備について、川崎病院におけるCT2台の更新時に機器購入と保守契約の合併入札を行ったことで、複数年のトータルコストでの競争により、契約価格低減に効果がありました。 ③令和2年2月に川崎病院の一部の診療科で導入していた、診察が近づいたら患者に通知する機能や、予約状況・近隣の医療機関検索ができるスマートフォンアプリを、全診療科に拡大しました。また、井田病院では患者サービス向上のため、診療費自動支払機をクレジットカード対応機種に更新するとともに増設(2台⇒3台)しました。 その他、井田病院において生じた光熱水費未請求等事案に関する再発防止策を取りまとめ、会議や通知により、職員への周知と再発防止策の徹底、4月の人事異動に伴う確かな事務引継の実施、年度末・年度初めにおける事務の処理漏れ等の防止の徹底等を指示し、各所属においても必要な取組を実施しました。 |
| 指標分類 | 数値で事業の実績・効果等を把握できる指標 (指標の説明) 目標・実績 H30年度 R1年度 R2年度 R3年度 単位 |
| 1 成果指標 | 経常収支比率(川崎病院) 目標 103.8 103.9 104.1 104.6 % 実績 103.3 101.3 96.9 — % 説明 病院本来の医療活動のほか、医療外活動も加えた経営状況を示す指標で、比率が大きいほど、経営状態が良好であることを表す。次の計算式により算出する。 $(\%) = (\text{医療収益} + \text{医療外収益}) / (\text{医療費用} + \text{医療外費用}) \times 100$ |
| 2 成果指標 | 経常収支比率(井田病院) 目標 95.3 96.9 97.2 98.1 % 実績 95.5 96.7 89.6 — % 説明 病院本来の医療活動のほか、医療外活動も加えた経営状況を示す指標で、比率が大きいほど、経営状態が良好であることを表す。次の計算式により算出する。 $(\%) = (\text{医療収益} + \text{医療外収益}) / (\text{医療費用} + \text{医療外費用}) \times 100$ |
| 3 | 説明 目標 実績 — |

評価 (Check)

| | |
|---|---|
| 事業を取り巻く社会環境の変化 (国・県・他団体の動向や法改正、規制緩和など) | 高齢化の進展や人口減少、あるいは雇用基盤や家族形態等の変化など、社会保障制度を取り巻く環境が大きく変化する中においても、公立病院には、地域において必要な医療提供体制の確保を図り、安定した経営の下で、不採算医療や高度・急性期医療等を、継続的に提供することが求められています。 |
| 事業の見直し・改善内容 | <input checked="" type="checkbox"/> 実施 (直近) H 27 年度 <input type="checkbox"/> 未実施 |
| 具体的な見直し・改善内容 ※過去に見直した履歴も記載できる場合は記載 | H28年3月:「川崎市立病院中期経営計画2016-2020(計画期間:H28~R2年度)」策定 H27年3月:「新公立病院改革ガイドライン(総務省自治財政局長通知)」 病院事業を設置する自治体に「新公立病院改革プラン」の策定を要請 H24年3月:「第3次川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H24~26年度)」策定 H21年3月:「第2次川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H21~23年度)」策定 H18年3月:「川崎市病院事業経営健全化計画(計画期間:H17~21年度)」策定 |

| 評価項目 | | 評価 | |
|---------|--|--|--|
| 必要性 | 【市民のニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていないか? | a. 薄れていない b. 薄れている | a |
| | 【市が実施する必要性】 他都市で、民間等でサービス提供している事例がないか? | a. 事例はない b. 事例がある | b |
| | 評価の理由 | 【市民のニーズについて】高齢社会の進展に伴い、今後ますます医療需要が高まることが予想されています。 【市が実施する必要性】公立病院として、引き続き救急医療、感染症等の政策的医療・不採算医療を担っていく必要があります。 | |
| 有効性 | 【成果】 活動結果(活動指標等)に対し事業の成果(成果指標等)は順調に上がっているか? | a. 上がっている b. 徐々に上がっている c. 上がっていない | c |
| | 評価の理由 | 経常収支比率は、直営2病院いずれも新型コロナウイルス感染症の影響による医業収益の減少により大幅に悪化しました。 | |
| 効率性 | 【民間の活用】 委託や指定管理者制度など、実施手法について民間活用によりコストを削減できる余地があるか? | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 【事業手法等の見直し】 事業の成果を維持しながら、契約方法、仕様の見直しなどによる経費削減や事務手続きの見直しなどによる事務改善の可能性はあるか? | a. 可能性はない b. 可能性はある | b |
| | 【質の向上】 事業を適正な(過小でも、過大でもない)規模の人員体制・費用で行いながら、市民サービスや市役所内部(職員・組織)の質の向上を図ることができる余地があるか? | a. 余地はない b. 余地はある c. 既に実施済み | b |
| | 評価の理由 | 【民間の活用について】値引き交渉アドバイザーの活用により、薬品費や診療材料費の抑制に取り組んでいます。 【事業手法等の見直し・質の向上について】各病院では、清掃業務や窓口会計業務等、委託による民間活用によって経費削減に取り組んでいます。更なる仕様の精査や契約方法の工夫などによって、より一層効率化、質の向上が図られる可能性はあります。 | |
| 施策への貢献度 | 貢献度区分 | 上記「有効性」の成果等を踏まえ左記区分を選んだ理由 | |
| | A. 貢献している B. やや貢献している C. 貢献の度合いが薄い | B | ・成果指標の経常収支比率は目標値に達成しなかったものの、「川崎市立病院中期経営計画2016-2020」に基づき、公立病院としての役割である救急医療、小児・周産期などの医療を継続的に提供することによって、信頼される市立病院の運営に貢献しました。 ・新型コロナウイルス感染症患者の受入れとともに、通常診療にも可能な限り対応したことや、国・県・市による補助・支援メニューの最大限の活用等により、経営影響を最小限に抑えました。 |

改善 (Action)

| 今後の事業の方向性 | 方向性区分 | 実施結果(Do)や評価(Check)を踏まえた今後の方向性 |
|----------------------------|--|---|
| | I. 現状のまま継続 II. 改善しながら継続 III. 事業規模拡大 IV. 事業規模縮小 V. 事業廃止 VI. 事業終了 | II ・値引き交渉アドバイザーの活用等による薬品納入値の引下げなど、引き続き経費節減の取組を進めるとともに、医師をはじめとする医療従事者の安定的な確保と新たな診療報酬加算の取得など、収入確保に向けた取組を進め、収支の改善を図っていきます。 ・新型コロナウイルス感染症による社会変容を踏まえながら、令和3年度に次期中期経営計画を策定し、引き続き安定的な病院経営と経営の効率化を推進します。 |
| 今後の事業の方向性を踏まえた次年度の計画上の変更箇所 | 変更前 (次年度計画上の記載) | |
| | 変更後 (上記計画上の記載に対する変更点) | |
| | 変更の理由 | |